

去る11月1日、はじめのいっぽ創業者・石橋わか子が永眠いたしました。今回のいっぽだよりは、設立10周年を迎えようとする中、一貫して変わることのない石橋わか子の「はじめのいっぽ理念」を噛みしめるとともに、新たな職員の誓いと追悼の言葉を皆様へお届けしたいと思い発刊させていただきました。

はじめのいっぽ理念

- 家庭的な雰囲気の中、「自然・食育・生活」を中心とした療育を行い、基本的な生活習慣を身につけられるよう支援します
- 一人ひとりの個性を尊重し、「ゆっくり、じっくり、ていねいに」子どもと関わり、それぞれの成長や発達を信じて待ちます。
- 仲間を認め、助け合う経験などを通じ、集団生活や地域社会へ適応できるよう支援します。

わか子先生への思いを職員から皆様へ

文 石橋 和久

師走に入り慌ただしさを感じる今日この頃、皆様如何お過ごしでしょうか。はじめのいっぽ創業者、石橋わか子は五年ほど前に乳がんが見つかり手術を受け克服してきましたが、安心も束の間、二年前に再発と転移が見つかり、多くの方々からの応援を受けて、色々な治療を行なってきました。今年の五月には途別に引越し、環境のいい素晴らしい景色を毎日見られる中、この上ない幸せを感じていました。しかし出勤しても思う様に仕事ができず、六月より途別の自宅で療養と仕事をしながら職場復帰を目指していましたが、なかなか回復せず、焦りと不安の日々を少しずつ感じるようになってきていました。フランスに居る末娘には、本人は隠していましたが私がたまりかねて連絡しました。九月の中旬頃より体調が優れなくなり病院に入院しましたが、先生からもう治療の方法が少ないと言われ、それであれば家に帰りたいと本人の希望もあり自宅療養をすることになりました。幸いなことに末娘が来日でき、奇跡のよう親子で涙を流しました。

創立10年を迎える今年、はじめのいっぽの石橋わか子は令和3年11月1日七十三年の生涯を終えました。

ここに生前皆様から頂いたご指導とご鞭撻に感謝申し上げます。

創立以来一貫して、はじめのいっぽの理念や思いを熱心に語る代表の姿を思い出します。まだまだやり残しの仕事が沢山あったと思うと残念でなりません。残された私達はわか子先生のように行きませんが、一人一人の職員が思いを一つにできれば、その理念に近づく事ができるはずです。(子供にも、はじめのいっぽにも) ゆっくり・じっくり・丁寧に！



文 山本 寿果

平成24年春頃・・・父と私で営んでいた蕎麦屋に、母と利用者の男の子がよく遊びに来ておりました。ある日、母からの電話「寿果！明星小に、〇〇くんのお迎えよろしく！」あまりに突然の事に理由など聞き返す余裕もなく、「いいよ・・・」。〇〇君の先生と知り合いだったから良かったものの・・・(o^—^o)。また別の日には、「寿果！今日契約あるから、4歳の子二人お願いね！」またまた理由を聞き返す余裕もなく「いいよ・・・」。そんな事の繰り返しで、いつの間にかいっぽの一員になっていて、必要とすることで、保育士の資格を取得することになり、はじめていっぽに足を踏み入れてから、気が付けば10年を迎えようとしております。これからも、最高のスタッフメンバーと志を一つにし、母の大切にしていたいっぽの子どもたちを守って行けたらと思います。「お母さん、たくさんの愛情を、ありがとう。」

文 西岡 友美

はじめのいっばにお世話になって約5年半・・・わか子先生と出会い、愛情たっぷりに子ども達と関わる姿は勿論のこと、幼少期の遊びの大切さ、生きる上での食への想い、文化を守り伝統を伝えていく大切さ等、私自身もわか子先生から教わることばかりでした。また、いっばに通う親子だけでなく、私たちスタッフにも常に目を向け、「先生はそのまま大丈夫！」等、優しさ溢れる温かい言葉にいつも励まされました。まさに家庭的な雰囲気に入れられ、私自身も穏やかな気持ちで過ごすことができました。

今後も子ども達の日々の成長を喜び、わか子先生の思いを胸に、将来に向けて「生きる力」を育めるよう子ども達に寄り添っていきたいと思います。どうかいつまでもいっばの子ども達を見守っていて下さいね。

文 山本 渉

いっばに関わるようになってから約6年・・・外遊びが大好きで、子どもと同じフィールドで遊べることに楽しさを感じボランティアで参加していましたが、わか子先生のお計らいにより、いっばでお世話になることとなり、私の自由奔放な活動を深い懐で受け止めて頂いておりました。

わか子先生亡き今、「私の役目は？」と考えたとき、やはり今までと変わらず、わか子先生の理念の根元にある「自然・食育・生活」を柱に、外活動を通し自然の楽しさ・厳しさ・優しさ・大切さを、そしてわか子先生がよく言っていた「生きる力」を子どもたちへ伝えて行くことだと考えます。

わか子先生、今日までご指導いただき本当にありがとうございました。最後まで現役を貫いたわか子先生に敬意を表しご冥福をお祈り致します。そして、いっばの子どもたちをいつまでもいつまでも見守り下さい。 合掌

文 石橋 卓弥

わか子先生が途別で療養していた10月下旬、様態が悪くなった時に、奇跡を信じて手を握らせてもらうと、柔らかくて優しいぬくもりだったことを今でもふとしたときに思い出します。私が子どもの頃、母でもあるわか子先生と手をつないだ記憶が残念ながらあまりなく、この年になって弱ってやせてしまったわか子先生の手を何度も何度も握れたことが幸せでした。これからは私たちのことをそばで見守ってくれているわか子先生が思い描いていた“いっば未来図”をかなえられるように、気持ちを前向きにしてがんばっていきます。お母さんたちもお子さんの記憶に残らないかもしれませんが、お子さんと手をつないで当たり前のように当たり前ではない幸せを感じてもらえればと思います。

文 三坂 一紗

わか子先生と出会い、日々学んだことは数知れず・・・子ども達に向ける優しい眼差し、笑顔、言葉、想い、その全てが私の中では聖母マリア様の様な存在でした。個性豊かな子ども達と接する中で悩んでいる私に、「大丈夫。頑張り過ぎないでね。楽しんでね。」等、優しい言葉をたくさんかけてくださり、何度救われたことかわかりません。これからもいっばで大切にしている“ゆっくり・じっくり・丁寧に”を忘れず、子どもが自ら成長していく姿を見守っていきたいと思います。

子ども達がこれからの人生を豊かに生きていける様、“生きる力”をいっば全員で育んでいきたいと思えます！！わか子先生、安心して見ていて下さいね。心よりご冥福をお祈りいたします。

文 西尾 恵美子

わか子先生と出会い40年・・・先生の保育は、すぐに子どもたちを夢中にさせ魔法のようでした。又、“働くお母さん”としても憧れの存在でした。「何があっても大丈夫！」といつも笑顔で背中を押してくれました。自分の事より周囲の人に一生懸命寄り添う先生でした。いっばだよりの読み返しても、先生の子どもの溢れる思いがいっばいです。先生のいないいっば・・・まだまだ悲しく淋しいですが、先生の思いを大切に守っていきたいと思います。

文 長崎 勉

幕別町字駒島で、農業経営の傍ら小さな蕎麦屋をしていました。わか子先生ご夫婦との出会いは、蕎麦屋常連のお客様でした。来店時は必ず電話で「今から行っても良いですか?」、いつも閉店間近の午後2時前「いいですよ、待ってますよ、急いで来なくてもいいですよ」って私・・・電話の声は何か申し訳なさそうに・・・最後に「あー美味しかった、ありがとう。」そのときのあの笑顔、明るい声、今でも忘れません。諸事情により、農業も蕎麦屋も閉じて帯広に転居したとき、「いっぽの仕事少し手伝って」とお誘いをいただきました。お手伝いして1年7か月、わか子先生の優しさや子どもたちのお陰で何とか務めています。いつまでお手伝いできるかわかりませんが、わか子先生のいっぽや子どもたちに対する思いや理念を忘れず、送迎の安全、楽しい車中に心がけて行きたいと思います。わか子先生と蕎麦の縁に感謝しながら・・・わか子先生ありがとうございました。

文 中田 香苗

「子ども一人ひとり、生まれてきてくれただけで価値がある大切な大切な存在、生まれてきてくれてありがとう。」わか子先生の言葉です。管理者という立場にありながら、まるで祖母のように母のように、時には友のように子どもたちと関わり、そこにいる皆がたくさんの笑顔に包まれました。その光景を思い出す度に、私の心はポカポカしてとても穏やかな気持ちになります。

わか子先生は「愛の人」。私はまだまだその足元にも及びませんが、その思いはいつでも胸に。子どもたちと共に日々を楽しみながら未来に向かって力強く進んでゆきたいと思っています。

文 五日市 由香

3児の子育てがやっと少し落ち着き、また保育の仕事がしたいなあと考えていた1年前。はじめのいっぽを知り、見学をさせて頂いた時に、初めてわか子先生とお会いさせて頂きました。優しく包み込むような笑顔で話を聞いて下さり、「今まで頑張ったのね」と声を掛けていただいたあの日の、胸がいっぱいで、わか子先生と一緒にお仕事させて頂きたい!と温かい気持ちで涙が溢れそうになった時の事が今でも忘れられません。ご一緒できたのはほんのわずかな期間だったのが残念でありませんが、わか子先生と出会えたこと自体が私の宝物となった今、「自然・食育・生活」を通して、私自身いっぽの子ども達とこれからも日々成長していけるよう、毎日を大切に過ごしていきたいと思います。わか子先生ありがとうございました。心よりご冥福をお祈りいたします。

文 木村 真眸

2月、娘を連れて面接に訪れた日が、わか子先生との出会いでした。弥生部屋のどこか懐かしい空気と心地よい暖かさの中、おままごとキッチンで遊ぶ娘を見て「しっかり育っているね。」と、円卓から微笑んでくれたわか子先生の姿をふと思い出す日々です。

わか子先生から教わった「生まれてきてくれただけでありがとう。」と子どもを丸ごと受け止める姿勢や数々の言葉、熱い思いを決して忘れることなく、日々子どもたちと関わっていきたくと思います。また、保育士としてわか子先生のもとで仕事が出来たことをとても幸せに思います。

文 島 玲子

身体も心もポッカポカ。そんな保育園にしていきましょう。」と指でハートマークを作り笑顔で挨拶してくれた長男の担任の先生。それがわか子先生でした。30年前のことです。帯広への転勤が決まり新設校勤務で仕事に追われ子どもたち(長女5才、長男2才)も新しい保育所で不安でしかなかった私でしたが、愛情たっぷり子どもたちの良さを認め大切にして下さるわか子先生にどれだけ助けられたことでしょうか。その後も我が家の子どもたちを可愛がって頂いて折に触れて気にかけて下さいました。そして、この度ご縁があり「はじめのいっぽ」で働かせて頂いて、まもなくお別れすることになるとは誰が想像したことでしょうか。悲しくて寂しくて残念でありませんが少しでも恩返しができるように、これから過ごさせて頂きます。わか子先生見守ってくださいますね。

ありがとうございました。 合掌

日々の活動



はじめのいっばは、何かをしようとするとき役割が阿吽（あうん）の呼吸で決まってしまう。できる事、やり慣れた事、楽しそうな事、子どもそれぞれが思い「やってみたーい！」が出发点となります。この日は、カレーづくり。薪ストーブでカレーを作り、ご飯を炊く・・・ストーブを物置から出して煙突つけて倒れないように支えて、薪を割り、火を起こして、お湯を沸かす、何もそんなめんどくさいことしなくても立派な結のキッチンで炊事すれば楽なのだけれど・・・毎週のように外で炊事し食べるのは、子どもたちに自然に生き抜く力を身につけてほしいから・・・そして大人になった時、今度は自分の子どもたちに伝えてほしいから・・・。



外で遊んでいると「せんせー、テーブルこわれてるー」と言われたので、「直しといてー！」と子どもに任せてみました。ガサゴソと物置の工具箱から、かなづちと廃釘を探し出し打とうとするけど、釘が曲がっている。サアどうしよう！悪戦苦闘し助けを求める眼差し・・・最初の本はやって見せましたが、二本目からはすべて自分で挑戦！一本打ち終わるのに20分ほどかかっていたましたが、一つのことをここまで集中できる遊びはなかなかないよなーと思っていると、「ぼくも、やりたい！」と4,5人でくぎ打ちを楽しんでいました。テーブルは、ハリネズミのようになってました。

ひつじ組さん編（午前未就学児）

毎回のようにはありますが、午前中の幼児さんが通い始めの頃は、みんなの行動がバラバラ・・・好き勝手にいろんなことを始めてなかなか大変な思いをしますが、日がたつにつれ仲間という事の楽しさを知ると急速にいろいろな成長が現れてきます。言葉であったり、食欲であったり、体力であったり、仲間と一緒になら勇気のいることもチャレンジできる。互いに成長し合う子どもたちの姿を間近で感じるこの職業は、とっても素敵だなあつくづく思うのでした。

こうして毎日、仲間同士笑い合い、ケンカしてそして仲直りして、いっばの時間が流れてゆくのでした。



新職員の紹介

11月より、はじめのいっばに新しい先生がやってきました。福井瑠美先生です。色々あった11月からの勤務となり、紹介が遅れてしまいましたが、子どもたちの間では、「るみ先生」と親しみを込めて呼ばれています。保育士として今後、頑張ってくださいますので、どうかよろしくお願い致します。



はじめのいっば新体制のご連絡

11月1日はじめのいっば代表 石橋わか子逝去にともない、11月8日臨時理事会を招集し、新体制の話し合いが持たれましたので、結果をご報告いたします。

これまでの代表及び管理者であった石橋わか子に代わり、代表を石橋和久、副代表を石橋卓弥 管理者として山本寿果が就任することとなりました。

新しい体制となりますが今まで通り、はじめのいっば創始者石橋わか子の理念は受け継がれていきますので、保護者各位、そしてはじめのいっばを応援頂いている皆様には、今後ともに変わらぬご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。新体制のご報告とさせていただきます。

